

単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 多様な動きをつくる運動では、その行い方を知るとともに体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100105_001

【準備等】竹馬、一輪車、一輪車練習台、ビデオ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 竹馬や一輪車のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 マナーや安全な運動の仕方について知る。 学習のねらいや進め方を知る。 <p>★竹馬や一輪車にバランスよく乗ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動をする。 ○竹馬や一輪車に乗る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>2～4 体のバランスをとる運動を行い、竹馬や一輪車に乗る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○竹馬に乗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・竹馬の練習段階 補助者が前について立つ→1人で台や手すりを利用して立つ→竹馬に乗って進む→方向を変える ・竹馬競争 ・竹馬鬼遊び ○一輪車に乗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリング(鉄棒や遊具を両手で持って→片手で鉄棒や遊具を持って→補助の子の手を持って→何も持たずに) ・一輪車の練習段階補助つき乗車(鉄棒等)→降車→補助つき乗車から半回転ずつ前進(ペダルを地面に平行の状態から平行の状態へ)→1回転ずつ前進→連続で前進→補助なしで前進 ・補助なし乗車 ・後進 ・一輪車競争 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できばえ ○発表、大会をする。 ○第4時は、単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹馬や一輪車に乗ることができるようにしたり、乗って楽しんだりすることを知らせる。 ・不安定な場を歩いたり(丸木橋や平均台など)狭い場(ライン上など)を歩いたり走ったりさせる。 ・練習の仕方を理解させる。 ・児童の実態に応じてグループ編成をする。 <p>＜グループ編成の例＞ 2人組、技能が異なる3人組、課題が同じ3人組</p> <p>【評】体のバランスをとる運動をしたり、用具を操作する運動をする中で、練習の仕方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を追って練習させる。 ・アイドリングとは、一輪車でペダルを地面に平行な状態から20度～45度ほど踏み込み元の方向へもどすことを繰り返し、その場で留まることである。 <p>【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】できる技で楽しんだり、できそうな技に挑戦したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて発表会や大会を行ってもよい。 ・グループでの話合いや自己評価などをさせる

【備 考】

竹馬や一輪車は、バランス感覚を必要とする運動である。特に一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を踏んであせらずじっくりと練習させ、一輪車に乗る感覚を体験させる。また、一輪車や竹馬に乗るだけでなく、様々な運動を経験させることで、体のバランスをとる動きを身に付けさせたい。さらにこの学習をきっかけにして、休み時間や家庭でもバランスをとる動きで遊んでいけるよう意欲を高めていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・用具に乗るなどの動きが苦手な児童には、二人組や三人組で体を支えて補助をし合ったり、器具等につかまりながら進んだりするなどの配慮をする。